

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

倉敷市長 伊 東 香 織

市町村名 (市町村コード)	倉敷市 (33202)
地域名 (地域内農業集落名)	真備町上二万・下二万 (茶仁古・大上・大前・花会谷・金山・中村・木村・若葉台・庄・萱原・外和崎・山崎・勢亡・西谷・南・端・内出・坪田・松尾)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年8月6日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

一団の農地が広がる平地では水稻耕作、丘陵地などではぶどう等の果樹が盛んな地域である。果樹栽培は生産部会を通じた研修制度などを利用して、新規就農者の参入も見られる。
ただし、70代以上の農家が耕作する農地が地域内農地の5割強を占めており、今後高齢化による規模の縮小や離農者の増加が予想されるため、新たな農地の受け手となる担い手の確保が必要である。農地の面積が狭小、不整形、水路が未整備など、耕作条件が良くない農地も多いため、担い手の確保や集積・集約化には農地の条件改善が課題となっている。
【区域の基礎的データ】
・主な作物: 水稻、ぶどう、露地野菜

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域内の農業者は高齢化により今後離農者が増加することが想定されるため、認定農業者や新規就農者を中心に農地の集積・集約化を図る。果樹等の産地の魅力を発信し、新規就農者の確保・育成を図る。効率的な農地利用ができるよう、農地の条件改善を進めるために今後も地域で検討を続ける。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	154.6 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	154.6 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内の農用地区域内の農地を、農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に農地の集積を進めるとともに、耕作者の交換等により農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、段階的に担い手への集積・集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
畦畔除去による農地の区画拡大等の簡易な整備の検討により、効率的に営農できる農地の確保を図る。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
認定農業者や新規就農者の確保に努め、市・県・JA等と相談体制を確立し、農地貸借手続きや技術的指導の支援を行っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
地域の担い手への作業委託により合理化を図り、耕作放棄地の発生防止に努める。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他
【選択した上記の取組方針】				